

# 小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	10	施策名	生活環境の保全		
小施策コード	10-2	小施策名	公害の防止		
小施策 主管課等コード	051000	小施策 主管課等名	環境企画課		
評価責任者名	千葉 信幸		内線番号	8410	
評価シート作成者名	小林 敬		内線番号	8411	

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
まちづくり評価アンケート 調査「清潔で衛生的、公害がない といった点で、きれいなまち だと思う」と答えた市民の割合	↑	%	75.8	79.1	77.4	77.0	80.0
焼却処理施設での年間処理量	↓	t	96,367	92,898	91,353	90,784	84,711

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

## Step 2 小施策の全体像

### 小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

対象 (誰 (何) を対象として行うのか)	意図 (対象をどのようにしたいのか)
環境負荷, 市民・事業者	環境負荷が取り除かれる。
現状と課題	本市の生活環境は、概ね良好な状況にあるが、身近な生活環境を良好に保ち続けるために、大気、水質、騒音、振動などの監視を継続して行い、公害発生を未然に防止する必要がある。
取組の方向性	身近な生活環境が良好に保たれ、環境への負荷が取り除かれるように、大気、水質、騒音、振動などの環境監視を行い、公害を防止する。

### Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
大気環境基準適合率（適合件数／測定件数）	↑	%	98.8	97.1	99.0	100.0	100.0
水質環境基準適合率（適合地点数／測定地点数）	↑	%	98.1	96.3	96.8	100.0	100.0
騒音環境基準適合率（適合地点数／測定地点数）	↑	%	91.3	86.7	86.7	96.0	100.0
振動環境基準適合率（適合地点数／測定地点数）	→	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標，↓：数値を下げていくことを目標とする指標，→：数値を維持することを目標とする指標）

### Step 4 市民ニーズの把握

まちづくり評価アンケート調査によると盛岡はごみの散乱や公害が少なく、清潔できれいなまちだと思うと答えた市民の割合が77.4%であることから、より一層の施策の推進が求められている。

### Step 5 役割分担分析

#### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	事業者に対する公害防止の啓発や適正な届出の指導を行う。	20
	国・県・ 他自治体	適正な法規制を推進し、全国・全県的な趨勢や動向に関する情報提供を行う。	20
	市民・ NPO	環境保全に関する身近な取組みを実践する。	30
	企業・ その他	公害の防止を徹底する。	30

## 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

指導すべき事業者数に大きな変動がないと思われるため現状維持とするもの。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

PM2.5（微小粒子状物質）の成分分析を実施する。

### 2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済，B：平成29年度に着手（予定含む），C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
PM2.5の成分分析	事務事業事前評価に提出	C

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

- ・ 事業費が高額で国の補助金もなく、事業費の工面が難しい。
- ・ PM2.5発生の原因を解明し、大陸由来の物質と判明した場合、低減に係る対処ができない。
- ・ 近年、当市を含めた岩手県において全体的に低減傾向にある。

## Step 7 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 大気、水質、騒音・振動とも環境基準適合率が高い水準で推移している。
- ・ 公害防止対策協議会及び公害監視委員会からの指導助言等により、排ガス基準値順守継続日数が2,400日を越え、地域住民との公害防止協定を継続して守ることができた。

#### (2) 成果をあげた要因

- ・ 大気については、測定局2地点において年間を通じて大気汚染物質を測定しており、一部環境基準の超過がみられたが概ね良好な状況であった。
- ・ 水質については、公共用水域28地点において年間を通じて水質を調査しており、一部環境基準の超過がみられたが概ね良好な状況であった。
- ・ 騒音・振動については、一般地域、道路に面する地域、高速交通沿線の騒音・振動を測定しており、概ね良好な状況であった。
- ・ 盛岡市クリーンセンター公害防止対策協議会及び盛岡市クリーンセンター公害監視委員会からの指導助言等に対し、必要な予算措置を含め可能な限り迅速に対応することができたため。

#### (3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

## 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 大気については、一部環境基準の超過（光化学オキシダント，微小粒子状物質PM2.5）がみられる。
- ・ 水質についても、一部環境基準の超過（河川における大腸菌群）がみられる。

### (2) 現状の問題点が生じている原因

複合的で広域的な要因によるものと考えられ，原因が特定できていない。

### (3) 分析した原因の解決に向けた課題

現在実施していないPM2.5の成分分析を実施することで，汚染物質の発生源を推定する。

## Step 8 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い，もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

### 2 1で記載した事業についてその理由

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

## Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

PM2.5の成分分析について，県，中核市等の取組状況の調査研究を継続していく。